

(資料 1) 資源ごみの出し方について

項目	現状	①市販袋（透明又は半透明）	②市の指定袋
ごみ収集の効率性	積込み時の空隙多・整理負担 前日のコンテナ等の配布作業：有り 資源ごみ回収日：月 2 回	積込み簡単。一部圧縮化による積込み量の増加による車両往復減 前日のコンテナ等の配布作業：無し 資源ごみ回収日：一部、月 2 回より増	
行政負担	通常無し。劣化したときにペタールボックス等を購入	行政での袋作成不要	袋作成費用 ただし袋代金（手数料）の収入あり
クリーンセンター	分別確認作業	袋開封作業 分別確認作業	
市民の利便性	出す場所が少数。車で持っていく必要。 資源ごみ回収日：月 2 回	可燃ごみのステーションに出すことが可（一部の地域を除く） ただし、ステーションに入る量とするため、資源ごみの日の増加が必要だが、その分、家庭に貯めておく量が減少	
市民コスト	ほぼ 0 円	袋購入（市販の透明又は半透明の袋）	市の指定袋の購入
回収場所での分別管理	排出者特定が困難	不適正排出に対する個別の取り置きが可能 強風による飛散の可能性が少ない	

※ビンの収集は別途検討が必要。